

リスマスローズ、ハイシマカンギク、ナカガワノギク、レモンマリーゴールド、ヒルザキツキミソウ、カンアヤメ、ハクチョウソウを栽培した。春にはダンギク、ジャノヒゲを植栽した。また、5月まではパンジーも栽培した。しかし、相変わらず植え替えなどの作業を手伝ってくれる会員が少なく、今後はいかに多くの会員に関心を持ってもらい、作業に参加し、苗の提供などを行ってもらうかを考える必要がある。

主な課題と今後の方向

(1) 入会して間もない人の退会が依然として多く、新規の会員の獲得に努めたが、本年度は前年度と比較して会員数の減少傾向が続いている。今後は、会員のニーズに合った新しい様々な企画の立ち上げ、また会員の意識の変化にも対応した仕掛けなどによって、会員の満足度を上げ、会員の増加を図らなくてはならない。また、引き続き広島県西部だけで

なく、東部方面にも広報を行い、新規会員の獲得を目指す。今後の新規会員獲得の試みとしては、

①部会を立ち上げ(写真部等)、会員の活動、懇親の場を広げ会員のニーズにあった企画の充実に努める。

②例会等の行事や管理ボランティア時に無料でできるサービスや参加しやすい行事を充実する。

などを実施し、大きなイベント(グリーンフェアなど)でPRする場を設ける。

(2) 収入源の補完として、

①例会時に行う苗等の販売の強化など。

②会員による花壇苗の増殖と提供(花壇苗購入金額の削減)

③会誌の内容や印刷経費の見直し

④支援団体からの助成金の獲得

(3) 会員の自主的運営を推進する。

などを実行していく必要がある。



種子交換業務について

富澤まり

社団法人日本植物園協会の拠点園保全技術研修(2007年10月10日、広島市植物公園にて開催)にて、当園で行っている種子交換業務について説明を行った。日本国内で海外の植物園と種子交換をしている園は数園であり、当園は開園当時(1976年、30年前)から交換業務を積極的に行っている。

研修会では、シードリストに種子の由来や自生地を記載すること、絶滅危惧植物等観賞価値以外の観点からの収集を拡げる事などが提案された。

平成19年度より種子採集時のGPSの活用を進めている。今後も本業務について、効率化を図りつつ、有意義な業務となるよう推し進めていく予定である。

種子交換業務の目的

本園と外国の植物園等が相互に種子の交換分譲を行い、自国で入手困難な種子の導入を図ることにより、幅広い植物収集を行うものである。

2006年度実績

種子目録送付先 32か国 173ヶ所
交換用種子(発送した種類) 204種類
種子目録送付時期 2006年12月末
注文締切 2007年2月28日
種子分譲(発送) 2007年9月

希望が多かった種(かっこ内は種子を発送した園数)

2006年

ツガ(8)、オトコヨウゾメ、オニバス(7)、カヤ、マムシグサ(6)、ウリカエデ、キヅタ、オオバヤシャブシ、ナカガワノギク、ハンカイソウ、ヤマグルマ、ハスノハカズラ(5)

2005年

アオテンナンショウ(17)、マタタビ(15)、マムシグサ、ウスゲクロモジ(13)、コブシ、ハイイヌガヤ(12)、ヒトツバカエデ、イヌツゲ(11)

2004年

トキワガキ、マムシグサ(12)、ヤマジノホトトギス、ハイイヌガヤ、リュウキュウマメガキ(11) レモンエゴマ、キンミズヒキ、オオズミ(オオウラジロキ)、ヒメサユリ(10)

種子交換業務作業マニュアル

種子採集 (9月～12月)

200種類以上を県内の各地、園内で採集。
野生種は県内数箇所にて採集する。

種子調整 (9月～12月)

果皮や果肉を取り除き、種子のみにする。果肉は、腐敗の原因になったり、発芽抑制物質が含まれていたりする。作業はかなり時間が必要で、ボランティアに手伝ってもらったことがある。
液果：果肉を除去後洗浄。ミズゴケなどと一緒にし、極端に乾燥しないよう保存。
乾果：十分に乾燥。塵埃(じんあい)を除き、乾燥保存。

種子貯蔵 (9月～発送終了まで)

2～3℃の冷蔵庫(種子貯蔵庫)に発送するまで保管。

シードリスト(種子目録)作成 (12月)

以前は印刷発注していたが、今はEメールで送ることができる園が増加したため、園で簡易印刷(約80部)。

シードリスト発送 (12月)

海外へ32ヶ国173ヶ所(内訳 メール106件及び郵便67件)、過去3年間先方からシードリストが送られて来ない施設は名簿から削除しているが、新たに追加する施設もある。
Eメールには、シードリスト(PDF)を添付して送信している。

注文取りまとめ (12月～1月)

種子の注文を受け付ける。

種子発送準備 (2月～)

種子を袋分けし、発送準備。

種子検査 (3月～)

植物防疫所へ連絡(ヨーロッパはブドウ科が禁止。アメリカは樹木のみ検査が必要。検査が必要なものについては、植物防疫所へ持参し、検査を受ける)

発送 (3月～)

それぞれ必要な郵便切手と宛名を印刷したタックシールを貼り、発送。

最後に種子交換記録を栽培記録に掲載。

海外からのシードリスト(Index Seminum)は、郵便やEメールで送られてくる。最近はこの植物園も簡易で迅速なEメールやホームページを利用したものが増えた。年末年始にかけて送られてくるものが多い。



写真1. 発送準備中の種子



写真2. 植物防疫所での検査